



JR東労組 八王子

HACHIOJI



ホームページ

発行責任者

執行委員長 針谷 歩

2020/12/29 No.10

2020年9月11日 申18号

その1

2020年度営業関係施策について団体交渉を実施！

1. 駅業務委託にあたっては、この間の労使の確認事項と議論経過を遵守するとともに、「エルダー雇用の場の確保の必要性」を前提としたものにする。

会:エルダーの力を活かすことが大前提である。しかし、エルダーもいずれいなくなることも踏まえ、人を育てていくことが大切と考えている。さらに、コロナ禍の現状や生産年齢人口の減少など人材を確保するのが難しい時代に来ている。長いスパンで考えていかなければならない。

組:営業職場のノウハウを衰退させてはならない。プロパーの育成も重要課題である。環境の変化に柔軟に対応し、人事異動・交流の中でエルダーも加えた技術継承・人材育成を労使共に検討していく。

2. 今施策を実行するにあたって「出向」が発生するのか明らかにすること。

会:出向については従来通りの考え方である。

組:出向を否定しているのではない。委託に伴いお客さまにご迷惑をかけるはいけない。

スムーズな業務移行には、人材育成と技術継承を目的とした出向でなければならないと考える。

3. 南武線の駅業務委託を実施するにあたっては、中央ラインモールに委託する目的と根拠を具体的に示すこと。また、施策の目的の実現に向けて業務委託先での人材確保及び乗務員区も含め十分な教育を行ったうえで実施すること。

会:中央ラインモールが発足して10年が経過し、駅業務運営のノウハウが蓄積されてきた。南武線の沿線価値向上も含めて中央ラインモールが相応しいと考える。2021年4月1日に合併し、新社名を「株式会社 JR 中央線コミュニティデザイン」となるが、同様と考える。

組:現在、稲城長沼駅は本体運営、南多摩駅と矢野口駅はステーションサービスが運営だが、委託後の現地責任者を担当できるなどの業務範囲と今後の教育スケジュールを明らかにされたい。

会:4月1日にスムーズに移行できるよう1カ月前程から見習い教育のスケジュールを組んでいる。異常時の現地責任者は、泊まりの駅務責任者が居れば可能だが、南多摩駅と矢野口駅は現行不可である。

組:委託後、異常時にお客さまにご迷惑をお掛けしないためにも、現地責任者が出来る体制の契約を望む。

また、過去に武蔵境駅で中央ラインモール委託後に発生した、「特急列車人身事故時に下り線に列車を侵入させた事故」の教訓を踏まえて、乗務員区の教育も合わせて強化されたい。

会:武蔵境駅の事故は絶対に起こしてはいけない。中央ラインモール委託後も安全維持向上のために、横浜支社とも連携して事前教育を充実させていく。

4. 「話せる指定席券売機」について、具体的な機能を明らかにすること。また、社員に対する教育と機能の説明を行うと共に、お客さまが安心してご利用いただける案内体制の充実を図ること。

組:2019年度の豊田駅の1日あたりの発見枚数と導入に向けた教育スケジュールを明らかにされたい。

会:豊田駅の2019年度の1日あたりの発見枚数は270枚、営業施策その2で竜王駅が2月1日に先行導入される。竜王駅と同様オペレーターとの意見交換会を開催し、理解を深めていく。

組:単なる要員減の機械化でなく、機械化によって生み出されたマンパワーを「人に優しい鉄道」の実現に向けて活用すべきである。

会:生産年齢人口減の中で生き残りをかけた施策である。マンパワーを活用して利用促進していく。そのうえで多様な働き方を促進していきたい。

つづく (その2へ)